

2016年度

特別選抜Ⅲ 発信コミュニケーション型(自己推薦入試)

適性検査

問1 例にならって、以下の(1)～(5)の語・表現の使用例として最も適切な例文を各群の①～④の中から一つ選び、○を記しなさい。

例) 見得を切る

- ① 初めは遠慮していたが、一人が見得を切ると、みんな次々に発言しだした。
- ② 勝手なことばかり言うやつだが、だれも見得を切って反対する勇気がない。
- ③ 私がやると見得を切ってしまった手前、今さらできないとは言えない。
- ④ 一度、知らないと言ってしまったので、見得を切り通すしかないだろう。

(1) 手垢^{てあか}がつく

- ① まだ手垢のついていない新人が主演に抜擢された。
- ② そんな手垢のついた口説き文句では、彼女は見向きもしてくれないだろうな。
- ③ 企画が通るまでに、何度も計画書の修正を命じられて、手垢がつく思いだった。
- ④ 大学ではフランス文学を専攻して、モーパッサンには十分手垢がついている。

(2) 肝

- ① 中華料理は、仕上げにごま油を入れて香りを出すのが肝だ。
- ② 川に入ったら、流れが思いの外速くて流されそうになり、肝が冷えた経験がある。
- ③ 平和を願う戦災経験者の訴えには、肝の底から共感する。
- ④ あの場面のプレッシャーにも動じないとは、よほど肝の据わったやつなんだろう。

(3) こまやか

- ① おもてなしとは、相手に対するこまやかな心遣いを重んじることだ。
- ② おもてなしの中では、こまやかなところまで手間をかけることが重要だ。
- ③ おもてなしも大事だが、あまりにこまやかなことまで世話を焼かれてはわずらわしい。
- ④ おもてなしにあたる従業員に、こまやかに指示を出しておいた。

(4) 発展

- ① ヒトが視覚の動物と言われているのに対して、犬は視覚よりも嗅覚が発展している。
- ② 赤道付近にあった低気圧が、今日午前3時ごろ、台風13号に発展しました。
- ③ 国境での小規模な衝突が全面戦争に発展するのではないかと懸念している。
- ④ 祖母は、ほとんど眠らずに祖父の病状の発展を最後まで見守った。

(5) 虎視眈々^{こんとたん}

- ① 面と向かってあんなことを言われては、虎視眈々していただけるわけがない。
- ② いつも虎視眈々を装っている課長が、今日は珍しく興奮して部長に食ってかかっていた。
- ③ あんまり虎視眈々な人物というのも、扱いにくいものだ。
- ④ 課長は、いつも穏やかそうに見えるが、実は部長の座を虎視眈々と狙っている。

問2 以下の(1)～(4)の会話・文章中の、誤った、または、不自然・不適切な語・表現に下線を付け、それが誤っている、または、不自然・不適切である理由を簡単に説明しなさい。

(1) 「雨が降ってきたのに傘を持っていない同級生に」「僕の傘、お貸ししてあげるよ」

(2) 化石燃料の枯渇が予想されるようになり、再生可能エネルギー関連技術が俄然脚光を集めはじめている。

(3) 薬品工場の爆発事故について、工場長は、「近隣のみなさまにご心配とご迷惑をおかけしたことを深くおわび申し上げます」と釈明した。

(4) どのような経緯でこのようなことが起こったのか、一向に存じ上げておりません。
